

指導資料



鹿児島県総合教育センター

英語 第61号

—中学校、盲・聾・養護学校対象—

平成18年5月発行

基礎・基本の定着を図る中学校英語科学習指導の充実 —平成17年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫—

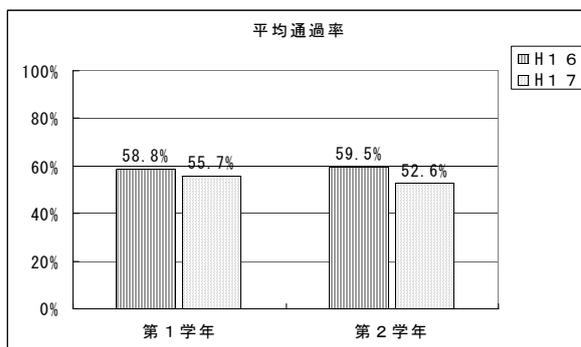
鹿児島県教育委員会では平成15、16年度に引き続き、平成17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。この調査は、学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち、「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに、各校の課題を明確にし、生徒の個に応じたきめ細かな指導方法の改善に資することにより、基礎・基本の確実な定着を図ることを目的として実施されている。

今回も、平成16年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前回」という。）と同様に、中学校第1学年及び第2学年で国語、社会、数学、理科、英語について、両学年ともすべての生徒を対象に実施した。

そこで、本稿では今回の英語科の結果について前回の結果と比較しながら分析するとともに、基礎・基本の定着を目指す英語科学習指導法の工夫について述べる。

1 定着度調査の結果と考察

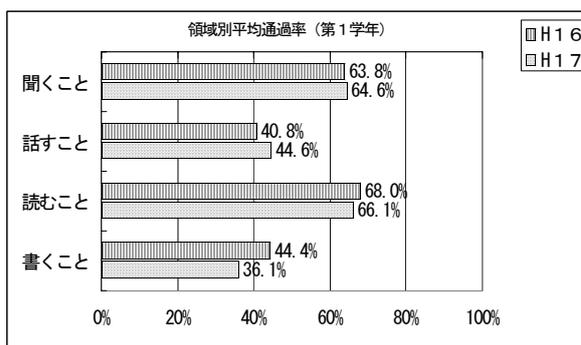
今回は、前回と同様の問題構成であり、難易度も同程度である。また、比較のための類似問題も出題されている。今回の平均通過率を前回のそれと比較し、以下に示す。



前回同様、両学年とも平均通過率が60%に満たない状況であり、第1学年では前回より3.1%、第2学年では6.9%低い結果となっている。

次に、領域別、観点別の結果と具体的な分析及び考察を示す。

(1) 領域別の平均通過率



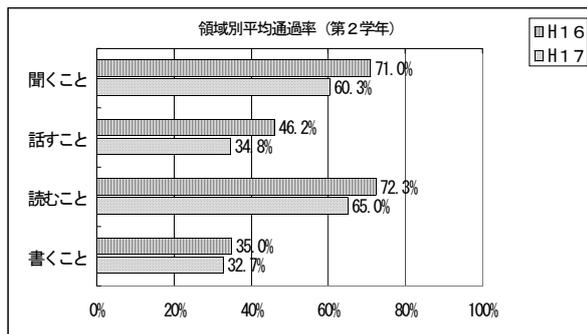
第1学年の「聞くこと」においては前回と今回の通過率に大きな差は見られない。設問ごとでは、「応答問題」の通過率が前回の59.8%から63.7%へ上がっているが、

「詳細理解問題」の通過率は54.2%から43.9%に下がっている。

「話すこと」においては、「聞くこと」と「書くこと」の設問から間接的にみた結果であるが、前述した「聞くこと」の基本的な応答問題の通過率が高くなっているため、この領域でも通過率が前回を上回る結果となっている。

「読むこと」においては、前回と同様の通過率であり、他の領域に比して定着度は高くなっている。

「書くこと」においては、平均通過率が36.1%と著しく低い。特に「文構造理解問題」の通過率が前回の67.2%から46.6%に下がっている。



第2学年の「聞くこと」においては、「概要・要点理解問題」が前回の75.6%から84.1%に上がっているのに対し、「応答問題」が67.3%から45.6%に、「詳細理解問題」が73.7%から65.0%に下がっている。

「話すこと」においては、第1学年と同様、間接的にみた結果であるが、「聞くこと」の「応答問題」が低くなっているため、この領域も前回を下回る結果となっている。

「読むこと」においては、前回より通過率が下がっているが、第1学年と同様、他の領域に比して定着度は高くなっている。

「書くこと」においては、「条件指定問題」、「トピック指定問題」ともに前回と類似した問題が出題されたが、それぞれ16.6%、12.2%と非常に低い通過率となっている。

各領域において、通過率の最も高かった設問と最も低かった設問を示す。

〔「聞くこと」についての通過率〕

学年	設問	通過率
1年	③ (2) 会話を聞いて概要・要点を理解する	95.6% [前回74.4%]
	② (1) 英語を聞いて詳細を理解する	32.9%
2年	④ (1) 会話を聞いて概要・要点を理解する	94.9% [前回97.3%]
	② (2) 英語での問い掛けに回答する	25.3%

(※〔 〕内は前回の類似問題の通過率。以下同じ。)

〔「話すこと」についての通過率〕

学年	設問	通過率
1年	① (1) 英語の問い掛けに回答する(「聞くこと」の設問)	76.9%
	⑨ (1) 対話文にふさわしい英文を書き入れる(「書くこと」の設問)	11.3%
2年	① (4) 英語の問い掛けに回答する(「聞くこと」の設問)	62.3%
	⑩ (1) 情報をもとにふさわしい英文を書く(「書くこと」の設問)	9.2% [前回9.1%]

〔「読むこと」についての通過率〕

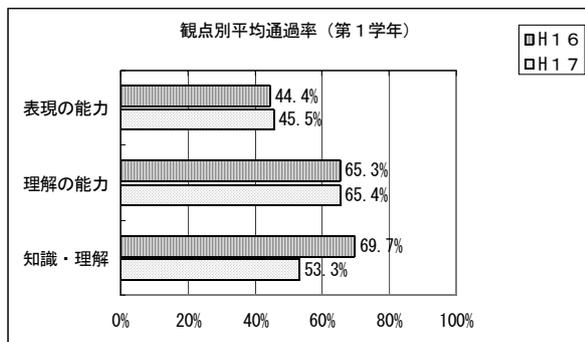
学年	設問	通過率
1年	④ (1) 英文を読んで絵の内容を読み取る	89.2%
	⑥ (3) 会話文を読んで談話構造を問う	46.8%
2年	⑤ (1) 英文を読んで絵の内容を読み取る	88.0%
	⑧ (2) 対話の流れに沿った適切な英文を答える	41.6%

〔「書くこと」についての通過率〕

学年	設問	通過率
1年	8 (1) 与えられた英語を正しい語順で書く	67.0%
	9 (1) 対話文にふさわしい英文を書き入れる	11.3%
2年	9 (1) 与えられた英語を正しい語順で書く	76.7% (前回76.2%)
	10 (1) 情報をもとにふさわしい英文を書き入れる	9.2% (前回9.1%)

(2) 観点別の平均通過率

次に、観点別の平均通過率を示す。

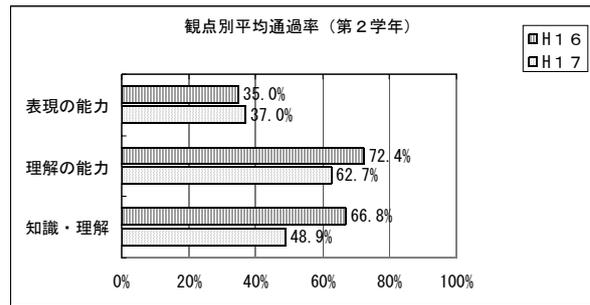


「表現の能力」は、「書くこと」と「話すこと」の設問からみているが、第1学年においては前回と同様、50%に満たない低い通過率となっている。その原因の一つとして、与えられたトピックを基に自分の考え等を書いて表現する設問の無答率が、34.6%を占めていることが挙げられる。

次に、「聞くこと」と「読むこと」の設問からみた「理解の能力」については、他の観点に比して定着度は高くなっている。

しかしながら、「言語や文化についての知識・理解」については、前回と比較すると通過率が低くなっている。特筆すべきこととして、基本的な表現である How are you? の並べ替えでさえ、通過率が67.0%に

とどまっていることが挙げられる。



第2学年の結果についても、第1学年と同様の傾向であるが、前回と比較すると、特に「言語や文化についての知識・理解」の通過率が著しく下回っている。ここでも基本的な表現についての文構造が理解されておらず、30~40%の通過率にとどまっている。

(3) 考察

前回同様、「書くこと」の領域の通過率が、他の領域に比べ著しく低い。この結果は、全国規模で実施されている教育課程実施状況調査（国立教育政策研究所実施）の結果やこれまでの定着度調査の結果と同じ傾向にある。このことは、基本的な単語や文を正確に書く力を今後も身に付けさせることの必要性を示している。例えば、Where is it? などの基本的な表現でさえ、文構造が理解されていないことから、音声による指導だけでなく、文字にしていく段階まで指導するなど、確実な定着を図っていく必要がある。

また、通過率の低い設問については、定着を図るために、活動内容の取扱いなど重点化した指導を行うことも大切である。さらに、「言語や文化に関する知識・理解」については、両学年とも前回と比較しても著しく通過率が低い。これらの「知識・理

解」は英語で理解したり，表現したりする活動を通して身に付けさせることが大切であり，継続的に繰り返し指導することが必要である。

2 結果を踏まえた改善策

以上のような定着度調査の結果を踏まえ，基礎・基本を定着させるための英語科学習指導法の改善策について，主な設問の特徴や誤答例を示しながら，「聞くこと」，「読むこと」，「書くこと」のそれぞれの領域について述べる。

(1) 「聞くこと」について

ア 「聞くこと」の設問の分析と考察

(ア) 「応答問題」の分析と考察

この問題は，基本的な電話での応答を聞き取り，場面の様子を把握する設問である。

② (2) (通過率 25.3%)
 会話を放送します。それぞれの会話では一か所だけ相手の言うことに対して応じる表現がチャイムの音で消されています。このチャイムで消された部分に入る表現として，最も適当なものをア～エの中から一つ選び，その記号を書きなさい。

[2年]

(テープ音声)

A: Hello. This is Kumi. Can I speak to Kenji?

B: 【チャイム音】

A: I see. I'll call back later.

ア Speaking.

イ All right.

ウ No, he can't.

エ He is not at home.

誤答としてウを選択した生徒は，Canを使った問い掛けに対しては，必ず can や cannot を用いて応答すべきであると

とらえていると思われる。これは，電話での基本的な応答が十分理解されていないことや I see. I'll call back later. の意味理解ができていないことなどがその原因として考えられる。

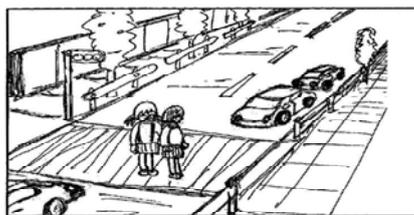
(イ) 「詳細理解問題」の分析と考察

この問題は，絵や図表を見ながら英語を聞いて，絵や図表の内容と合った英文を選ぶ設問である。

② (1) (通過率 32.9%)

○ 絵について a,b,c,d の英文を読みます。それぞれの英文が絵の内容と一致する場合は，解答らんの「正」の文字を○で囲み，一致しない場合は，「誤」の文字を○で囲みなさい。

[1年]



(テープ音声)

a You see two cars and three girls.

b You see three cars and two girls.

c You see three cats and two girls.

d You see two cars and two girls.

これは英文を聞いてその詳細についての理解を問うているが，数字(two, three)や名詞(cars, cats)についての聞き取りができず，通過率が低くなったと考えられる。

イ 「聞くこと」の指導方法改善の視点

○ 授業における英語使用の工夫改善

「聞くこと」の力を付けるためには，授業におけるクラスルーム・イングリッシュ等，英語を聞かせる機会を意図的・計画的につくっていくことが不可欠であ